新ど研 Report

2017/01/30
北海道博報堂 新どさんこ研究所

新どさんこレポート vol.04

テーマ：北海道民の食行動に関する意識

食の宝庫・北海道に暮らす道産子は、
食生活や食に対する意識におおらかな傾向。
健康のための食事、という意識は低め。
「外食」が好きな男性像と、
「家食」を好む女性像が明らかに。

北海道博報堂「新どさんこ研究所」（新ど研）では、生活者を取り巻く環境変化が加速していく中、
北海道民の意識や行動も変わっていくという仮説のもと、「一歩先の道民＝新どさんこ」の姿を
生活者のデータ分析や未来予測から提言していきます。

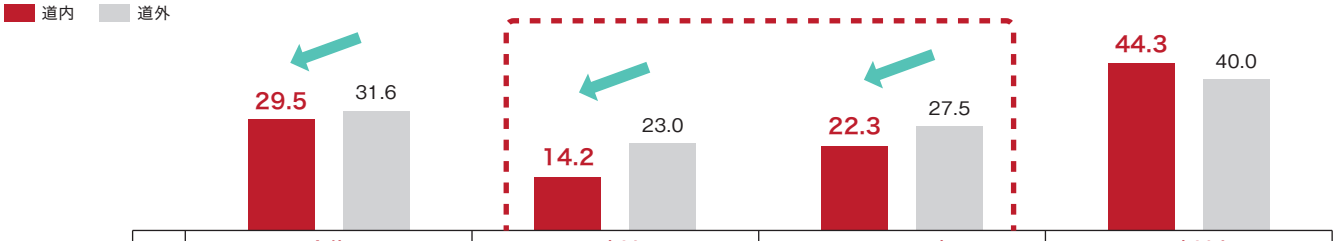
今回のレポートでは、道民の“食意識”をご紹介します。

データのご紹介

出典：北海道博報堂　新どさんこリサーチ（2016年度調査）

① 北海道の「食と健康」意識

健康に気をつけた食事をしている（5段階/「かなりしている」+「ややしている」の合計）



	N	全体	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	1,000	29.5	14.2	22.3	44.3
道外	500	31.6	23.0	27.5	40.0

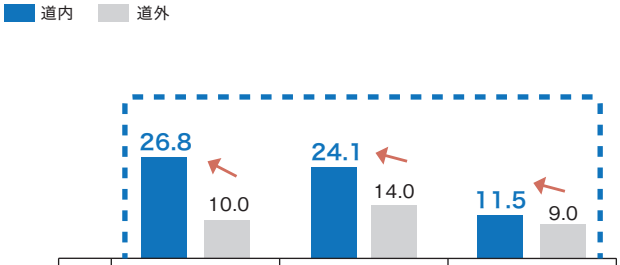
道内外で「健康に気をつけた食事をしている」かどうかを比較したところ、全体として、道内の方が低い傾向でした。
50歳以上になると、健康への意識が高まり、道外よりも若干高い44.3%となっていました。

② 道民男性の「食」意識

49歳以下でコンビニ食やレトルト食品への依存度が高く、家での食事よりも「外食」が好きな道民男性。ただし、ファストフードの利用は少ない。

Q.「食」生活について、あなたご自身にあてはまるものをいくつでもお知らせください。

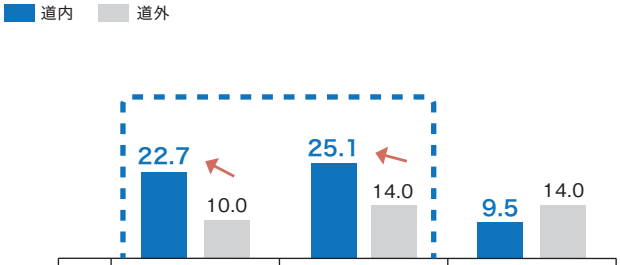
コンビニエンスストアの食品（弁当、惣菜など）は私の食生活には必要だと思う



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	26.8	24.1	11.5
道外	250	10.0	14.0	9.0

道内男性は、幅広い世代で道外を上回る。特に29歳以下では著しく、16.8ポイントの差。

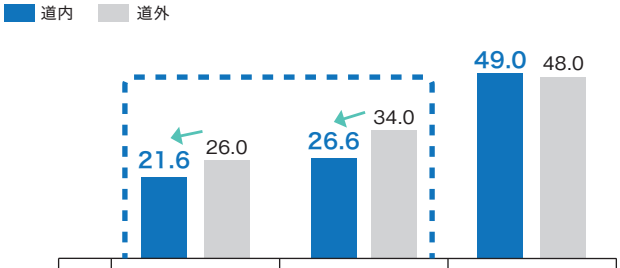
調理済食品（レトルト、冷凍食品、惣菜など）をよく使う方だ



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	22.7	25.1	9.5
道外	250	10.0	14.0	14.0

50歳以下の道内男性は、調理済食品をよく利用する傾向。特に29歳以下は12.7ポイントの差があり、30～49歳でも10ポイント以上高い。若年で差の出る傾向は、「コンビニエンスストアの食品」と似た結果に。

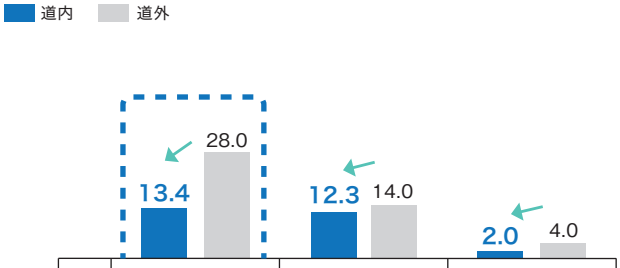
外食よりも、家で食べる食事の方が好きだ



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	21.6	26.6	49.0
道外	250	26.0	34.0	48.0

道内男性は、特に30～49歳で外食好きの傾向が強く、50歳までの幅広い年代で、家で食べる食事よりも「外食が好き」という回答が多い。

ファストフードをよく利用する方だ



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	13.4	12.3	2.0
道外	250	28.0	14.0	4.0

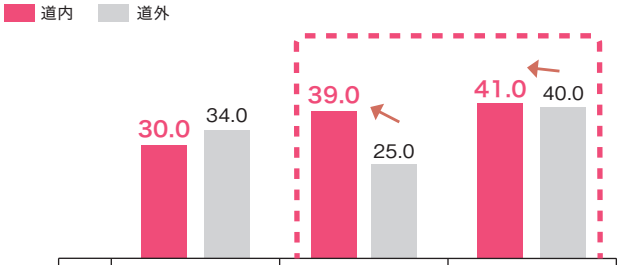
「ファストフードをよく利用する方だ」と答えた人は、道内男性の全年代で道外を下回る。特に29歳以下では、14.6ポイントもの差がある。

③ 道民女性の「食」意識

「おふくろの味」が豊富で、「家食」を好む道内女性。
30歳以上は夜ひとりで外食できない人が多く、
「おひとり様」が苦手。

Q. 「食」生活について、あなたご自身にあてはまるものをいくつでもお知らせください。

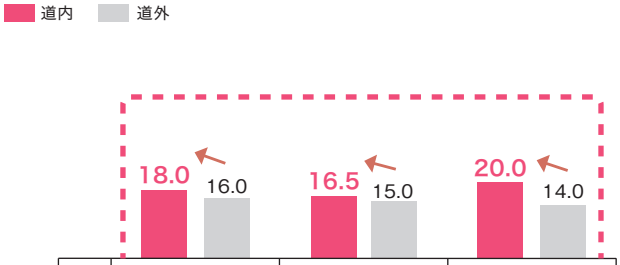
外食よりも、家で食べる食事の方が好きだ



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	30.0	39.0	41.0
道外	250	34.0	25.0	40.0

道内の30歳以上の女性は、「家での食事が好き」な傾向。
特に30～49歳以下の女性で差が開き、道外に比べて14ポイント高い結果に。

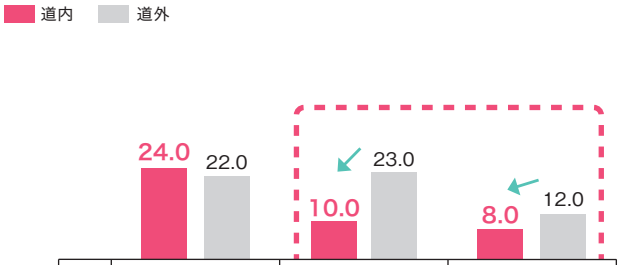
母親や祖母・姑などから伝わった「わが家」の伝統料理がある



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	18.0	16.5	20.0
道外	250	16.0	15.0	14.0

「わが家の伝統料理がある」と答えた道内女性は、全世代で道外よりも多い結果に。特に50歳以上がもっとも高く、道外との差も大きい。

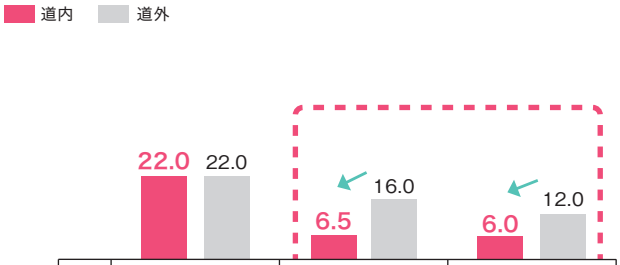
夜にひとりで外食をすることに抵抗はない方だ



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	24.0	10.0	8.0
道外	250	22.0	23.0	12.0

道内女性は、道外と比較すると特に30歳以上で夜にひとりで外食することに抵抗がある。

ファストフードをよく利用する方だ



	N	29歳以下	30～49歳	50歳以上
道内	500	22.0	6.5	6.0
道外	250	22.0	16.0	12.0

道内女性は30歳以上で道外を大きく下回り、道外の半数以下という結果に。29歳以下を除く年代で、著しく低い傾向にある。

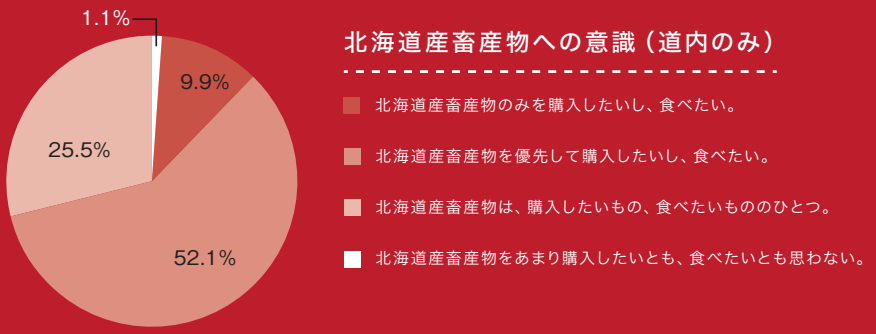
POINT

今回の発見の
ポイント

新どさんこは、楽食主義？

食の宝庫と言われる北海道、誰もが羨む地域特性ですが、
そこに住んでいる道産子の食生活も興味深い傾向でした。

コンビニ食やレトルト食、そして外食が好きな男性。
こちらは、豊富な食環境に常に恵まれているため、毎日の食へのこだわりが
あまりなくなり、より手軽で簡単な“楽”な食を好む傾向にあるのでは
と考えられます。
一方で、家食やおふくろの味を好む女性。
とくに子育て世代で手料理や家食重視の傾向。
こちらは、冬の長い間に外出機会が減り、在宅時間も長いため、
食材の在庫などを上手に管理しながら、おいしくて飽きないメニューを
工夫している様子が伺えます。親から教わった料理を家族で囲み、
“楽しい”食を志向しているのではないでしょうか。
楽で楽しい楽食志向、そんな北海道の食生活が想像できます。
ただ、若い女性はファストフードや外食の利用も活発な様子。
女性の社会進出も進み、先々変化していくかもしれません。



また、第一回のレポートで北海道民の郷土愛の深さをお知らせしましたが、
北海道産の食品についても高いロイヤリティがあるようです。
できるだけ道産のものを買いたいし、食べたいと思っています。
今後も道産のものを大切にするという意識はそのままに、
食生活を変化させていく新どさんこの姿を追いかけていきたいと思います。

新どさんこリサーチ 2016

調査目的：北海道の生活者意識を定量的に把握し、道内外や道内地域で比較することで、
「新どさんこ」の潮流を見つけることを目的とした、新どさんこ研究所のオリジナル調査。

調査概要：ウェブ調査
調査期間：2016年11月
調査対象：道内外在住の男女18～69才
サンプル数：1,500（道内エリアは人口構成比で割付）
道内1,000S/道外500S（割付は下表の通り。）
調査会社：東京サーベイ・リサーチ

道内
1,000サンプル
（+道外500）

道外	
男性20代以下	50
男性30代	50
男性40代	50
男性50代	50
男性60代	50
男性計	250
女性20代以下	50
女性30代	50
女性40代	50
女性50代	50
女性60代	50
女性計	250
道外計	500

道内※	
男性20代以下	97
男性30代	103
男性40代	100
男性50代	100
男性60代	100
男性計	500
女性20代以下	100
女性30代	100
女性40代	100
女性50代	105
女性60代	95
女性計	500
道内計	1,000

※道内割付	
道央	350
道南	150
道北	180
道東	320
道内計	1,000

新ど研

公式WEBサイト　http://shindoken.com/

過去のレポートはこちら！

北海道博報堂「新どさんこ研究所」（新ど研）とは？

生活者を取り巻く環境変化が加速していく中、北海道民も変わっていくという仮説のもと「一歩先の道民＝新どさんこ」を生活者データ分析や未来予測から見出す専門組織です。

所長
山岸 浩之 Hiroyuki Yamagishi
2014年北海道博報堂入社。
コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、
北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

お問い合わせ　株式会社北海道博報堂コミュニケーション戦略局マーケティング部　新どさんこ研究所 広報担当：吉川　☎011-251-0178